

施策マネジメントシート

作成日 平成 29 年 6 月 26 日

施策	10 快適で暮らしやすい生活環境づくり		
施策 主管課	下水道課	氏名	鈴木寿明
施策 関係課	経営企画課、市民活動支援課、土木課、管理総務課、業務課、水道課		

1. 現状把握 Plan→Do

(1) 施策の目的と指標

① 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 ◇市民	③ 対象指標名称 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない (単位)
	a 笛吹市の人口<山梨県笛吹市住民基本台帳行政区別人口統計表(4月1日現在)> 人
	b c
② 意図 (対象をどういう状態に変えるのか) ◇水路、上下水道、住宅など、日常生活に欠かせない社会基盤が整備され便利に暮らすことができる。 ◇公営温泉、市営住宅などが整備され、豊かで質の高い暮らしを送ることができ。	④ 成果指標名称 (意図の達成度の指標) 数字は記入しない (単位)
	d 有収率 %
	e 市営住宅入居世帯数 世帯 f 市営温泉市民利用数 人 g 下水道普及率 % h 水洗化率 %
⑤ 成果指標設定の考え方 ◇生活の快適さや豊かさを、市営住宅入居世帯数、市営温泉利用度、下水道普及率、水洗化率で判断する。 ◇水の安定供給について、水道配水管からの漏水等で減少する有収率を指標として設定する。	⑥ 成果指標の取得方法 ◇有収率、下水道普及率、水洗化率は公営企業部データ。 ◇市営住宅入居世帯数は建設部管理総務課データ。 ◇市営温泉利用度: まちづくり基礎調査の中止につき平成26年度より市民の市営温泉利用者数に変更

(2) 指標・事業費等の実績推移と目標値

			23年度 実績、決算	24年度 実績、決算	25年度 実績、決算	26年度 実績、決算	27年度 実績、決算	28年度 実績、決算	29年度 最終目標
対象 指標	a 笛吹市の人口<山梨県笛吹市住民基本台帳行政区別人口統計表(4月1日現在)> 人	見込み値	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000
		実績値	72,192	72,145	71,724	71,132	70,749	70,559	
		b 見込み値 実績値							
成果 指標	d 有収率 %	成り行き値		75.0	74.8	74.6	74.4	74.2	74.0
		目標値		77.0	81.0	82.0	83.0	84.0	85.0
		実績値	75.1	80.6	80.2	81.3	79.8	80.0	
	e 市営住宅入居世帯数 世帯	成り行き値		330	330	330	330	330	330
		目標値		330	330	340	350	370	380
		実績値	329	329	321	308	307	291	
	f 市営温泉市民利用数 人	成り行き値	37.0	37.0	38.5	338,250	338,250	338,250	338,250
		目標値	41.0	42.0	40.0(346,000)	354,000	362,000	370,000	378,000
		実績値	38.5	39.1(338,250)	38.2(334,652)	-(354,813)	354,661	345,034	
	g 下水道普及率 %	成り行き値	58.9	58.9	58.9	58.9	58.9	58.9	58.9
		目標値		58.9	59.7	60.0	60.3	60.6	60.9
		実績値	58.8	59.4	60.6	61.0	62.8	64.8	
h 水洗化率 %	成り行き値		83.7	83.7	83.7	83.7	83.7	83.7	
	目標値		83.7	86.0	87.0	88.0	89.0	90.0	
	実績値	82.7	85.0	85.4	87.3	87.0	85.7		
施策コスト	事務事業数	本			31	31	36	39	
	事業費 (A)	千円	7,417,669	9,270,613	3,304,357	2,609,911	2,399,153	2,306,136	
	うち一般財源 (A')	千円	5,274,208	7,177,370	2,721,424	1,980,356	892,534	1,191,153	
	人件費 (B)	千円	266,858	259,829	265,159	273,379	252,199	214,803	
	トータルコスト (A+B) (C)	千円	7,684,527	9,530,442	3,569,516	2,883,290	2,651,352	2,520,939	
	うち一財 (A'+B) (C')	千円	5,541,066	7,437,199	2,986,583	2,253,735	1,144,733	1,405,956	

(3) 施策の目標設定の根拠 (水準の理由と前提条件)

- 後期基本計画策定に伴い成り行き値、目標値の再設定を行った。
- ◇有収率: 成り行き値は、H23年度実績値を基に毎年0.2ポイント減少で設定。目標値は、H23年度実績値を基にH25年度から毎年1ポイントの増。
- ◇市営住宅入居世帯数: 成り行き値は、H23年度実績値を維持で設定。目標値は住宅マスタープランH32年度までに400世帯の目標からH29年度までに380世帯となるよう設定。
- ◇市営温泉利用度: 成り行き値は、H23年度実績値を維持とした。目標値は、H23年度実績値を基にH25年度から毎年0.5ポイント増で設定していたがまちづくり基礎調査の中止につき平成26年度より市民の市営温泉利用者数に変更。
- ◇市営温泉市民利用数: 成り行き値は、H24年度実績値を継続とした。目標値は、平成24年度の実績に毎年約8千人増にて設定した。
- ◇下水道普及率: 成り行き値は、H23年度実績値程度で推移するとして。目標値は、H23年度実績値を基にH25年度から毎年0.3ポイントの増で設定。(下水道健全化計画による。)
- ◇水洗化率: 成り行き値は、H23年度実績値に1ポイント増で設定。目標値は、H23年度実績値を基にH25年度から毎年1ポイント増で設定。

(4) 施策の役割分担 (住民と行政との役割分担)

ア) 住民の役割 (住民・地域・団体・事業所が、自助・共助でやるべきこと) ◇道路、水路の維持管理(清掃)を行う。 ◇下水道供用開始地区の住民は、負担金を納め、下水道につなぐ。 ◇下水道利用者は下水道使用料金を納める。 ◇浄化槽利用者は浄化槽を管理する。	イ) 行政の役割 (市・県・国がやるべきこと) ◇市は、上下水道、市営住宅、生活道路の整備、維持管理。温泉施設、温泉給湯施設の維持管理。 ◇下水道整備が困難な地区の住民に合併処理浄化槽設置を支援。 ◇県は下水道処理施設を運営する。
--	---

(5)環境変化 (対象者や根拠法令等は5年前と比べてどう変わったのか?)

◇H18年度より指定管理者制度を温泉3施設に導入したが、H26年度からは、2施設となった。◇H22年度に60戸分の雇用促進住宅を購入した。◇琴川ダムが供用開始し、ダム水を利用するようになった。◇H22年度に境川浄水場、H26年度には、御坂浄水場が完成し、広瀬ダムのダム水も利用できるようになった。◇生活環境が節水型志向で水道使用量が減少した。◇H22年度から橋梁の長寿命化計画策定に着手した。また、平成22年度作成した住宅マスタープランに基づき公営住宅建替え計画を策定した。◇H27年度に下水道加入員を雇用し、未接続の家庭に直接接続の依頼を実施し、水洗化率が向上した。◇H27年度に直営1施設(なごみの場)は用途の目的が福祉施設として所管部署を変更した。◇H28年度において下水道受益者負担金の収納率向上のため、徴収員1名を採用した。

(6)関係者の意見・要望 (住民、議会、対象者、利害関係者等)

◇生活道路・水路を整備して欲しいとの要望がある。
◇温泉施設にバスが巡回するようになって便利になったという声がある。
◇監査委員より漏水について対策を講じるよう指摘がある。
◇市民から、下水道の加入促進を図るべきとの意見がある。
◇議会等から老朽化した公営住宅への対応を求められている。

2. H28年度の施策の実績 Check

(1)施策の成果実績

Table with 2 columns: ① 目標達成度評価 (前年度目標値と実績値との比較), ② 時系列比較 (過去3か年の比較), ③ 他自治体との成果実績値の比較. Includes checkboxes for target achievement and comparative results, and detailed explanatory text for each item.

(2)施策のコスト実績 (対象1単位当たり又は住民一人当たりのコスト)

Table with 6 columns: 対象指標名称, (単位), 26年度, 27年度, 28年度, 効率性評価. Rows include *対象指標実績値, *対象1単位当たり事業費, *対象1単位当たり人件費, *対象1単位当たりトータルコスト.

(3)施策の現状と課題の総括

◇公共下水道整備事業において下水道整備を進め、河川の水質浄化に努めてきたが、経営健全化が課題になっており、H21年度から計画の見直しを行っている。さらに健全化に向けては使用料並びに受益者負担金徴収事業において、使用料の料金改定や徴収率向上に向けて取り組んでいる。国の要請により、10年概成を目標に汚水処理のアクションプランを作成し県と連携を図り、市の下水道全体計画区域を平成32年度に峡東流域下水道計画の見直しに合わせて、浄化槽による処理区域と下水道による処理区域の区域検討を行なっていく必要がある。◇市営温泉施設は、建設時期が概ね同時期であり経年劣化につき維持管理(修繕費)が年々増加している現状となっている。◇引き続き生活道路(市道)・水路の整備を進めていく必要があるが、道路延長の増加に伴って維持管理経費がかさむことから計画的な整備や改修が求められている。◇市営住宅については平成28年度に「笛吹市市営住宅長寿命化計画」の改定を行った。この計画に基づき維持改修を行っていく。◇有収水量のアップを図るとともに、漏水等の無駄な配水を減少させ有収率の向上を図る必要がある。◇有収率についてはほぼ横ばいの状況であったが、平成27年度の大規模漏水により少し低下してしまっ。H28年度は漏水修理により若干ではあるが回復した。今後も大きな漏水等による無駄がなくなるよう配水量の状況を確認を行うとともに、漏水が発生しやすい老朽管路の更新を計画的に行い、目標数値に少しでも近づけるよう事業を進めていく必要がある。◇温泉給湯事業を行っている自治体は珍しく、地域が限定されているが、充実した社会基盤となっている。

3.後期基本計画の取り組み方針(30年度) Action

(1)現状と課題から導き出した次年度の取り組み方針

下水道事業については、河川水質及び衛生的な生活の向上に向けて、今後も下水道普及率、水洗化率の向上を目指す。
◇平成32年度に向けて下水道全体計画の見直しを行っていく。
◇市営温泉施設は経年劣化により維持管理(修繕費)の改修計画を図る。
◇生活道路(市道)及び水路の整備を行う際には、必要性等の精査を行うとともに計画的な整備や改修を進めていく。
◇市営住宅については笛吹市市営住宅長寿命化計画に基づき、市営石和四日市場団地の建替え事業に取り組む。
◇笛吹市の水は、安心安全でおいしい水であることをアピールすることにより有収水量のアップを図るとともに、漏水等の無駄な配水を減少させ有収率の向上を図る。
◇有収率の向上については、順次古くなった水道管を取り替えることにより、漏水を少しでも減少できる。また、個人宅地内の漏水についても減少するよう努める。

(2)施策の対象を、目標に導くための次年度の手段

◇下水道普及率向上については、国の交付金事業を活用しながら市単独事業とで管渠布設工事を進めて普及率の向上を図る。
◇水洗化率向上については、各地域のスーパーの店頭にて加入接続のPR活動の実施、広報に下水道への接続のお願い版を発行して全戸配布を行う。また、工事説明会の折、下水道本管完成時には、速やかに使用開始をお願いする。
◇下水道全体計画区域の見直しに向けての検討作業に入る。
◇公共施設再配置計画の中で温泉施設の見直しの検討を図る。
◇市営石和四日市場団地の建設事業を実施する。
◇有収率の向上については、順次古くなった水道管を取り替えることにより、漏水を少しでも減少できる。また、個人宅地内の漏水についても減少するよう努める。